

PS 及び SM の 2018 年 12 月度及び年間 実績概況

(PS)

1) PS の 2018 年 12 月度の実績概況

生産は61.7千トとなり、前月比+25%、前年同月比でも+1%の増加となった。12月の定期修理はなかった。(11月は2社2工場だった)

国内出荷は51.9千トと前月比-11%と減少した。前年同月比でも-13%と4ヶ月続いてマイナスとなった。各分野で前月比マイナスとなっている。前年同月比でも各分野でマイナスとなった。用途別では、包装用は前月比-8%と減少、前年同月比では-11%の23.2千トとなった。包装用の各分野とも前月比、前年同月比でマイナスとなった。雑貨・産業用は前月比-16%、前年同月比では-23%の7.2千トとなった。フォームスチレン用は15.2千トと前月比-15%と減少し、前年同月比でも-15%となった。PSP、ボードともに前月比、前年同月比でマイナスとなった。電機・工業用は6.3千トと前月比-5%、前年同月比でも-5%となり、生活家電を除く各分野で前年同月比マイナスとなった。

輸出は3.1千トとなり、前月比+26%、前年同月比+46%と増加した。

輸入は、11月3.5千トとなり、累計で26.9千ト。ほぼ前年並みの年間31千トとなる見込み。

出荷合計は55.0千トとなり前月比-10%、前年同月比では-11%となった。

在庫は、前月より6.7千ト増加し75.0千トとなった。(在庫月数1.4か月)

2) PS の 2018 年 年間の実績概況

2018年 年間生産量は、692.0千トと前年比-2%と減少した。昨年まで3年連続して前年比プラスだったが頭打ちとなった。2018年は5~6月、10~11月に定期修理となった。

国内出荷は前年比-1%の661.5千トとなった。用途別では、フォームスチレン用、雑貨・産業用で前年比プラスとなった。包装用は年間で-3%と減少し288.8千トとなり、乳酸菌は前年並み、それ以外は前年比マイナスとなった。フォームスチレン用は年間で+1%の194.1千トとなった。PSPは前年を上回った。雑貨・産業用は、前年比+1%の91.2千トとなった。電機・工業用は前年比-4%の87.5千トとなった。

輸出は、前年比+22%の38.6千トと増えた。

出荷合計では、前年並の700.1千トとなった。

在庫は、前年より減少し75.0千トンとなった。在庫月数は1.4ヶ月で前年並み。

2018年を振り返ると、生産、出荷とも4年連続増加とはならず頭打ちとなった。用途別にみると、電機・工業用、包装用が前年より減少した。輸出の増加により、出荷計は前年並みを確保した。輸入はまだ2018年11月までのデータしかないが、ほぼ前年並みの年間31千トンとなる見込み。今後の為替、原燃料価格の影響などを注視していく。

(SM)

1) SMの2018年12月度の実績概況

生産は192.3千トンとなった。前月比+4%の増加、前年同月比では-1%の減少となった。12月は定期修理のない月であった。

国内出荷は126.7千トンと前月比+12%の増加、前年同月比では-4%となった。用途別では、主力のPS向けは58.2千トンと前月比+15%の増加となり、前年同月比では-2%の減少となった。ABSは前月比+36%の27.5千トン、前年同月比でも+42%と増加した。一方、合成ゴムは前月比-8%と減少し12.5千トンとなり、前年同月比でも-27%の減少となった。EPSは8.5千トンと前月比+61%となり、前年同月比では-22%となった。不飽和ポリエステルは前月比-37%と減少し2.7千トンとなり、前年同月比でも-11%の減少となった。

輸出は62.2千トンと前月比-9%となり、前年同月比では+10%となった。

出荷合計は188.9千トンとなり、前月比+4%と増え、前年同月並となった。

在庫は69.9千トンと前月より3.4千トン増えた。在庫月数は0.4ヶ月で前月から変わらず。

2) SMの2018年 年間の実績概況

2018年 年間生産量は2007.5千トンとなり、前年比-4%の減少となった。前年より減少とはいえ、2018年も高い稼働率で推移してきたことになる。

国内出荷は前年より7.8千トン減り1,480.7千トンとなった。定期修理の際は輸出を減らし国内出荷量を安定的に確保してきた。用途別では、主力のPS向けは年間を通して安定に推移し、689.9千トンと前年比+2%となった。ABS向けは273.4千トンと前年比+6%と増加した。合成ゴム向けは158.0千トンと前年比-4%と減少した。EPS向けは103.8千トンと前年並となった。不飽和ポリエステル向けは38.2千トンと前年比+2%の増加となった。

輸出は531.9千トンと前年より-10%の減少となった。

出荷合計では2,012.5千トンで前年比-3%の出荷となった。

在庫は、年末で69.9千トンとなった。(在庫月数 0.4ヶ月)

2018年全体では、高い稼働率を維持し国内出荷を確保する構造になった。2017年に続き、輸出は出荷合計のおよそ1/4程度となった。

国内生産能力も2,000千トン規模となり、安定運転の確保は引き続き重要になっている。